



サンゴの植え付けのための 養殖サンゴの森

チーム美らサンゴでこれまで植え付けを行ったサンゴは全部で24種類。かつてのサンゴ礁のバランスを取り戻すことを目標にしているの、いろいろな種類のサンゴを植え付けています。苗は万座ビーチ湾内で恩納村漁協が養殖しているものをドナーサンゴとして使います。養殖サンゴは流れが当たるところに広がるようになっており、その様子はまるでサンゴの森のようです。サンゴの種類や植え付けの時期によって、成長する速度が異なるために、その都度種類を変えています。成長するにつれ複数のサンゴが融合して成長が早くなるので、ひとつの保護カゴの中にはいくつかのサンゴを寄せ植える手法が取られていますが、それらは同じ親株であることが条件なのだそうです。



ノンダイバーは、海中展望船で植え付けたサンゴの成長した姿を見学。色とりどりの魚の姿に歓声があがります。

沖縄の梅雨明け直後の6月15日、夏空のもと、恩納村のANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾートで、今年2回目のサンゴの植え付けが行われました。今回の参加者は59名。チーム参加企業に所属するタレントの吉澤ひとみさんも参加してにぎやかに行われました。

海に親しむことで その環境への意識が高まる

啓発活動としてフォトコンテストや美らサンゴ祭りを開催するなど、10年の間に活動の内容は広がりをみせています。

ビや雑誌などで目にする機会が多いですが、では、サンゴって一体何？と訊ねられたらきちんと答えられない方も多いはず。このサンゴの植え付けイベントでは、サンゴが海や海の生き物にとって、どういう存在であるのか、また、サンゴの増殖のしかたなど丁寧に教えてくれます。

例えば、海水温が30度以上になるとサンゴの細胞内にある褐虫藻(植物プランクトン)が逃げ出してしまい、光合成によってできる栄養をサンゴが受け取れなくなるためにサンゴが死んでしまう、白化現象についての説明がありました。ですからノンダイバーが行うサンゴの苗作りでは、素手でつかむだけでも人の体温でサンゴが火傷をしたような状態になってしまふので、海水に手を浸して手の温度を下げてから作業を始めます。このようにサンゴに関する知識が深まると、活動に対する思いも強まっていきます。

午後からはダイバーによるサンゴ

島宝見聞録



守り伝えたい
沖縄の宝物を紹介します。

チーム美らサンゴ

美しいサンゴ礁が広がり、多種多様な魚が泳ぐ
美ら海を復活させたいという思いが活動の源です



サンゴの植え付けは、苗を海中の岩盤にボルトでとめ、魚やオニヒトデに食べられないように保護カゴをかぶせます。



サンゴの植え付けポイントに向かうダイバーたち。コンディションは最高。元気よく、行きます！

の植え付けが行われ、ノンダイバーは、水面からその様子を見学します。ウエットスーツに身を包み、ポイントまで移動をするボートに乗り込む参加者からは、ほんの数時間一緒に過ごしただけで、海の環境を守ろうという同じ目的を持ったひとつのチームであるという連帯感が感じられました。

夕方からは恩納村漁協の方々も加わり、バーベキューを楽しみながらの交流会。「年代も、暮らす地域も違う参加者の方たちが一緒にあって、本当に楽しそうに夜中まで飲んでたりおしゃべりしていますよ」と石橋さん。回数を重ねるにつれ、親子での参加や、リピーターも増えているというのは、チーム美らサンゴの活動が、参加者ひとりひとりの楽しい体験になっているからなのでしょう。

ともに守りたい 海の宝物

毎年初夏の大潮の日にサンゴの産卵が確認されますが、チーム美らサンゴが2011年に植え付けたサン

サンゴの植え付けを通した 環境保全と啓発活動

海水温の上昇による白化現象や、オニヒトデの発生、赤土の流入による被害などで、大きな打撃を受けたサンゴを再生しようと、2004年に発足した「チーム美らサンゴ」の取り組みが今年10年目を迎えました。

チーム美らサンゴとは、県内外の企業(2013年現在14社)と恩納村漁協、ANAインターコンチネンタル万座ビーチリゾート、さらに自治体が一体になり、ボランティアダイバーによって、サンゴの植え付けを行う活動です。これまで63回の植え付けが行われ、2000人以上の方たちが参加しています。「現在はい部分の方たちが参加するイベントだけではなく、もっと多くの方に沖縄のサンゴの状況を知っていただくために、イベントの実施などを通じた啓発活動にも重点をおくようになりまし」と話すのは、ANA総務・CSR部CSR推進チームスタッフ・アドバイザーの石橋順子さん。ダイビングライセンスを持たない方も参加できるノンダイバープログラムを設定して活動の幅を広げ、新たな



養殖場で苗づくり。

ゴの産卵も、今年の6月に確認されたそうです。これまでに植え付けを行ったサンゴの生存率も50%前後で推移しています。

夏場の海水温の高い状態は依然続いていますし、台風被害でダメージを受けるサンゴも少なくありません。けれども地域の枠を越え、海の宝物を守り育てるチーム美らサンゴの取り組みは、少しずつ実を結びさらに広がっていくにちがいありません。

現在サンゴの植え付けに参加しているのは、県外の方が圧倒的に多いそうです。「県内の方にも、この活動のことをもっと知っていただき、参加していただきたいです」と石橋さんは言います。チーム美らサンゴの活動は、サンゴの植え付けだけに限りません。地球温暖化を少しでも抑制するための日々の暮らしでの取り組みや、海の環境を守ろうとする意識を親から子どもへ伝えていくこと、そういう参加のしかたもあるはず。



チーム美らサンゴの活動は、「第32回全国豊かな海づくり大会」で、農林水産大臣賞(漁場・環境保全部門)を受賞しました。第5回コーラルフォトコンテストも実施中。秋の植え付けは、10月19日(土)と11月16日(土)。詳細はHPで。

チーム美らサンゴ <http://www.tyurasango.com/>

